

〈東文研・ASNET共催セミナー〉

形態の伝承と変形

— 毘陵草虫図と朝鮮草虫図を中心に

*The Transmission and Transformation of forms:
Focusing on the Flower and Insect Paintings of Piling School
in Joseon Dynasty*

草虫画は親しみ深い草花や小さい虫などを中心モチーフとする絵画である。このモチーフは朝鮮や日本でも、古来、立身出世や長寿などの吉祥の意味が込められて描かれた。

毘陵(武進・晋陵)は、現在の江蘇省常州の旧名である。伝統的に絵画制作が続けられてきたこの地は、水禽蓮花図とともに、草虫図をはじめとする花鳥画で知られている。本発表では、作品の比較を通して、毘陵の草虫図が朝鮮草虫図の中でどのように受け入れられ、変化してきたのかについて述べる。



- ◆ 日 時 : 2016年 1月 28日 (木) 17:00-18:00
- ◆ 報告者 : 安在媛 (特任研究員、東洋文化研究所)
- ◆ コメント : 井戸美里 (講師、京都工芸繊維大学)
- ◆ 会 場 : 東京大学 本郷キャンパス内 東洋文化研究所 1F ロビー

※ 報告は日本語で行われます。



東京大学
日本・アジアに関する教育研究ネットワーク
Network for Education and Research on Asia

